



小さな工場には、夢がある。

光岡自動車

☎ 0120-65-0022

高槻に次世代がん拠点

大阪医科大など31年開所

大阪医科大が大阪大や大阪府立大、京都市大などと連携し、大阪府高槻市にある医科大の敷地内に次世代がん治療「ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)」の医療拠点「関西BNCT医療研究センター」(仮称)を設置することが23日、関係者への取材で分かった。各大学で培ってきたがん治療の基礎研究成果を臨床現場にフィードバックするだけでなく、臨床データを次の基礎研究につなげるのが狙い。

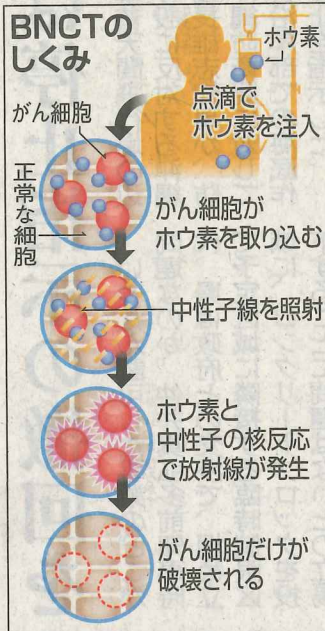
BNCTに特化した医療拠点は西日本初で、平成31年春の開所を目指す。BNCTは、手術せずがん細胞をピンポイントで破壊する最先端のがん治療法。がん細胞が栄養分として取り込みやすいホウ素薬剤を投与した患部に、中性子線を照射しホウ素と核反応させる。その際発生した放射線ががん細胞だけを狙い撃ちできるため、副作用が少なくて済むのが特徴だ。

治療が困難な悪性脳腫瘍

国内では、30年度の治療開始を目指す「南東北BNCT研究センター」(仮称)の建設が福島県で進められるなどの動きがあるが、大阪医科大内のセンターは西日本初の拠点になる見込み。

実用化に向け薬剤の精度向上や量産化などが課題になっている。関西では、大阪府立大がホウ素薬剤研究の実績を重ねており、大阪大はホウ素薬剤ががん細胞に蓄積されているかを調べるPET検査の研究拠点になっている。またBNCT

の治験で使う加速器が稼働している。大阪府もセンター設置を支援する方針で、連携する各大学で共同利用し研究開発を推進する。



や頭頸部がんなどの難治性がんは特に有効とされる。周囲の正常な細胞まで傷つけるリスクがある従来型の放射線治療に代わる次世代の治療法として注目されている。

の治験で使う加速器が稼働している。大阪府もセンター設置を支援する方針で、連携する各大学で共同利用し研究開発を推進する。

ついでに、大阪府もセンター設置を支援する方針で、連携する各大学で共同利用し研究開発を推進する。